

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102442		
法人名	有限会社あいか		
事業所名	グループホームあいか		
所在地	岐阜市鏡島精華2-4-24		
自己評価作成日	平成29年10月1日	評価結果市町村受理日	平成30年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102442-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102442-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成29年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当初よりご家族、ご本人の意向により看取りのケアに取り組んできた。グループホームでの看取りを希望されるご家族、利用者さんも多く医療とも連携をとりながら信頼関係を築いてきた。地域包括ケアとして、地域内でのホームの役割も広がりつつあり老人会の活動の場や、ふれあいの場、認知症の相談窓口となるなど地域の役割の一端を担うことができた。そして、日々の看護実践にとどまらず、地域社会への正しい認知症の理解のための講演活動など積極的に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設14年を経たこのホームは、職員にとっても、働きやすい職場環境となっている。勤続年数の長い職員が多く、利用者との馴染みの関係が保たれている。長期の入居で介護度も高い利用者が多いが、看護師である代表者を筆頭に、全職員が利用者の体調や些細な変化も見逃さないよう心がけ、適切な医療支援を行い、本人・家族の安心感に繋げている。近隣には、住宅は少ないが、災害時の対応についての話し合いを行っており、市の福祉避難所として名乗りを上げている。地域福祉の発信地として期待したいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念をスタッフ全員が理解し実践できるような理念を掲示、カンファレンスなどの場で再確認している	「地域との触れ合いや個別の支援、利用者を含めた仲間と馴染みの関係を築く」という理念に沿って、日々のケアを行い、利用者が少しでも笑顔が増えるよう全職員で共有し、支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭りへの参加、スーパー、喫茶店を利用するなど日常的に交流している。老人会の発表の場となったり、介護の相談窓口となっている。	近隣の「JA夏祭り」に出かけたり、春の祭りの際には、子供みこしがホームを訪れている。地域の老人会の人たちに、大正琴や銭太鼓の演奏をホームで披露してもらい、交流の機会にもなっている。また、近所の人々の訪問の際には、介護や入居についての相談も受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域づくり会議などにも積極的に参加し、地域住民との意見交換を行っている。また認知症の理解を深める講演活動も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的におこない、実践の報告や議題について意見交換を行っている。外部評価の結果も議題として取り上げている。変わらず参加されるご家族に限られている現状である。	運営推進会議は年に6回開催し、利用者代表や近隣の薬局店主も参加し、意見交換をしている。ホームの報告だけでなく、毎回テーマを変えて話し合うことで、災害時の課題点を改善に繋げ、サービスの質の向上へと活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者には運営推進会議を通してホームの取り組みを報告している。また地域会議などでも岐阜市の担当者と意見交換を行うことができた。	行政へは、毎月窓口に訪問しており、生活保護受給者についての書類や手続き等で相談したり、空室情報の提供、災害時における地域の協力についてを相談するなど、良好な関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成し身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。今年度は運営規定に身体拘束の事項を追加した。	常に、利用者の気持ちを重んじ、身体拘束をしない方針でケアを行うよう、全職員で取り組んでいる。転倒の危険性のある人でも、安易に拘束をせず、見守りやソファの高さや位置を合わせたり、ベッドの柵に鈴をつけるなどの工夫で、心身共に拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について新聞等のトピックスをカンファレンスで話し合うなどしている。		

岐阜県 グループホームあいか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会を今年度も研修会へ参加した。きずなの会や社会福祉協議会の方とも連携をとりながら情報の共有を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して十分な説明を行っている。契約書などはじっくり読んでいただけるように自宅へ持ち帰ってもらい後日契約するなど配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設ける、家族との面会時には管理者が声かけするなど意見を聞くことができるように心がけている。	家族の訪問も頻繁にあり、気軽に意見を聞ける関係性ができている。個別状況を知らせる中で、トイレのゴミ箱に蓋をつけて欲しいなどの意見があり、家族の希望を取り入れながら、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各月にてカンファレンスを行い管理者、代表者が出席し意見交換の場を設けている。意見交換ができるよう自由な雰囲気の中で行っている。	ケア会議では、業務改善についても、意見交換を行っている。また、会議だけでなく、日常的にも、意見や提案をリーダーに伝え、管理者もそれらを把握している。勤務調整や、改善できることは迅速に行ない、働きやすい職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会労務士とともに職場環境の整備を行っている。できるだけ3日以上続けて勤務のないよう、希望の休みをとれるように配慮している。今年度はパートの就業規則を導入予定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立案し、内部研修も含めて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などの参加できるよう勤務を配慮している。また勉強会などの情報を事務所に掲示するなど情報提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と入居前に面談し関係づくりに取り組んでいる。また本人の思いを聞くように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族への面談を行い要望等を聞く機会を設けている。また困っていることだけでなく生活史を伺い今後のケアに活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの導入に関しては緊急性にも配慮しサービスの導入を行っている。またホームの受け入れが難しい場合には他の施設を紹介するなどしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にも入居者と職員は対等な関係であることを掲げ実践に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけでなく、家族や周りの人も一緒に本人を支えていくようなプランの作成に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方、民生委員などとも交流を続けてもらっている。	利用者が、以前、よく利用していた商店の店主や、知人がホームに訪れている。その際には、雰囲気作りに努め、次回の来訪を促すなど、関係の継続を支援している。また、馴染みの美容院や駄菓子屋、喫茶店などへも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、利用者同士の力を発揮できるように見守る場面もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後のご利用者さんやご家族にも、相談しやすい環境を心がけている。利用者さんが亡くなったあとにそのご家族や友人が入居されるケースも多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者さんの担当を決め思いや希望が伝えやすい環境に取り組んでいる。日々のかかわりから意向を把握するようにしている。	入居時にアセスメントをしているが、入居後に、日々のケアの中で発見したことなども拾いあげ、支援に活かしている。植物の水やりや管理が得意な人、居室の掃除や折り紙作成など、利用者一人ひとりの「好きなこと」「やりたいこと」を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活史を伺うなどして理解するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のペースで生活できるように一人一人の暮らしを細やかに観察し、排せつ、食事量などの記録も記載している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に本人、家族、スタッフに聞き取りを行い本人らしく生活できるような介護計画を立案している。	本人・家族の意向を把握し、主治医や薬剤師の意見も加えた介護計画を作成している。計画の中には、身体的支援に加え、ホームのクリスマス会で、ハーモニカを演奏するといった「具体的な目標」も支援に組み入れた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などは介護計画に基づき記載し実践している。特記事項などは申し送りノートで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節のイベントや趣味に合わせた対応、病院への送迎など柔軟にサービスを提供できるよう実践している		

岐阜県 グループホームあいか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今までの地域での関係性を把握し以後の相手を依頼したり、ボランティアサークルの団体にも参加していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医がいる場合には継続して受診できるように配慮している。	入居時に、かかりつけ医の選択について説明し、3割の人が以前のかかりつけ医を継続している。協力医による月2回の往診や、24時間体制の訪問看護等で、利用者の体調管理を行い、受診情報は、ホームと家族で共有し、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に関してはノートを作成し情報交換に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居退院時にはサマリーを作成し情報の共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と入居時より終末についての意向を入居時より確認している。またターミナルケアにも開設時より取り組んでいる。訪問看護ステーションとも連携しながら取り組んでいる。	入居時に、重度化と終末期についての指針説明を行っている。状態変化に応じて、その都度、本人・家族の意向を確認し、主治医や訪問看護師の指示を仰ぎながら、支援を行っている。これまでに数例の看取りを行っており、付き添う家族の為の寝具も備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急対応マニュアル、救急車への緊急カードを作成し対応できる体制を整えている。また吸引器の位置も確認できる体制を整えた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回、水害訓練を1回行っている。地域住民にも参加していただいている。災害時の電源確保に地域住民が協力していただけることとなった。	消防署指導の下、定期訓練に加え、水害の訓練を独自に行なっている。災害時における電源確保については、地域住民の協力を得られる体制がある。食料、飲料水などを確保しているが、今後は、主治医の指示を仰ぎ、利用者の薬の備蓄も検討している。	災害時における広域的な避難場所・避難所等について、家族に説明し、混乱を招かないための情報提供や、協力体制作りに向けて期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の生活環境、家族関係などの情報に基づき個々に応じた対応をしている。声のトーンや態度にも注意をはらい対応している	接遇研修では、常に、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応と、言葉かけや、声のトーンについても配慮することを学んでいる。本人の思いに寄り添いながら、手をつないだり、傾聴することで、安心感を持ってもらえるよう心がけ、ケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の行為の準備など可能な限り本人と共に行っている。介護する側の好みや先入観をおしつけないように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を取り入れた日課づくりをしていることが課題。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧やおしゃれなどをイベントなどに取り入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みや形態を工夫している。ミキサー食、きざみ食など体調に合わせて出している。	調理担当の職員が、利用者との日々の会話の中で、食べたい物を聞き取り、その人に合わせた味付けやとろみ、刻み食などを提供している。また、食べたい物を個別に出す事もあり、一人ひとりの食べる意欲を引き出せるよう支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食べる量やバランスを把握し記録している。また水分量などの確認が必要な入居者さんに対しては一日の水分量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後実施している。またかかりつけの歯科で入れ歯の調子を見てもらうなど行っている。湖南エンドも口腔ケアに注目し歯科を連携をとり対応している。		

岐阜県 グループホームあいか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつパターンを把握し気持ち良い生活ができるように時間ごとに誘導するなどできるだけトイレでの排せつができるように取り組んでいる。	個々の排泄パターンや身体状況に合わせてチェック表を作成し、声かけと誘導により、排泄の自立を支援している。夏季の日中は、布パンツを希望する利用者の対応もしている。夜間は、ポータブルトイレ使用や、個々の状態に合わせたおむつ用品を選択し、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を毎日把握し対応している。毎日運動の時間を設けたり、朝食後にトイレに座ってもらうなど薬に頼らない計画を作成している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人での個別入浴を実践している。入浴日意外であっても排せつの状況や本人の思いに沿った入浴介助をしている。	基本の入浴回数はあるが、その人の希望に合わせている。気の進まない人には、声かけのタイミングや、時間を変更したり、介助職員を変えて、リラックスして語り合えるような工夫をしている。シャワー浴や2人介助でも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく睡眠薬を使用しないように日中の活動を進めるなど支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服内容の一覧をカルテに張るなど職員が薬の内容を把握できる工夫をしている。内服ミスがないようにチェック体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の役割を意識してもらう声かけをし、一人一人の生活歴を生かした支援を行っている。掃除や裁縫、食事用意、花の手入れなど得意を生かした役割を提案している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	喫茶店、近所の友人宅、ブドウ狩りなど希望があれば支援している。日常的にはなかなか外出できていない状況であるものの家族とも連携しながら支援をしている。	日常的に、周辺の公園で散歩したり、利用者の希望に応じて、喫茶店や日用品の買い物に出かけている。できる限り、個別の要望にも応えられるよう工夫し、支援を行っている。利用者が望む墓参りや外食は、家族の協力で実現している。	



岐阜県 グループホームあいか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の残存能力にあったお金の管理を行っている。また紛失してもいいような額を持ってもらい安心感を得てもらうケースもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話を使用してもらう、手紙のやり取りができるよう準備するなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭にある花を活けたり、季節を感じられるような掲示を工夫している。また歓喜に心がけ清潔な空気を取り入れている。空気清浄機も設置した。	明るく開放感のあるリビングには、形や高さの異なる椅子やソファが置かれ、利用者が好みの場所で寛ろぐことができるよう考慮されている。また、季節の花や、壁に飾られた大きな絵画は、おしゃれで落ち着いた雰囲気である。健康管理のひとつとして、自然喚起に加え、空気清浄機を設置し、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いたり、小さなスペースを作るなど自由に過ごせる環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や寝具を取り入れている。自宅周辺の写真を飾ったり工夫している。	居室には、馴染みの家具や小物が持ち込まれている。利用者の希望により、ベッドではなく、床にマットレスを敷いている人もある。居室の整理整頓は、職員と共に行い、家族の写真や作品を飾るなど、居心地良く暮らせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を大きくする、部屋の目印を付けるなど入居者さんに合わせた環境を整えている。		